

## 巻頭言

名古屋大学農学国際教育協力研究センター長  
山内 章

大学が期待されている社会への貢献の中で、国際協力活動はますますその重要性を増してきています。とくに、大学にしかできない、自らの研究に根ざした専門的協力活動を推進していくことが、焦眉の課題となっております。しかし、近年の我が国の大学等が実施してきた国際協力活動は教員個人の努力と情熱に依存する部分が大きく、自らが有する知的資源を組織的、継続的に十分有効に活用しうる体制が確立されてきたとは言えません。また、国際協力活動に係るプロジェクトや業務の受託が担当教員の業績上および経済的なメリットになり得るシステムも多くの組織では不在で、これもまた大学教員の積極的な国際協力への参加を阻む要因となっております。一方、個別の国際協力案件に目を転じますと、各大学が実施している協力は、研究者個人あるいは特定領域の研究チームが有する知見の範囲内での協力を限定されることが多く、本来開発の現場から必要とされている専門的かつ網羅的な「知と経験」の提供が十分／適切になされているとは言い難いのが現状です。

こうした現状を踏まえ、大学や研究機関等、国内外の様々な有能な組織と幅広いネットワークを形成し、農学分野における教育・研究協力に関する拠点機能を強化し、高質な知と経験を提供することを可能とすること、また、国際協力を大学の本来業務の一つとして位置づけ、より多くの有能な研究者の国際社会への貢献を具体化するための議論のきっかけを形成する場として、名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、第9回オープンフォーラム「大学等有する知的資源の組織的活用による国際教育・研究協力の推進と強化—農学知的支援ネットワークの形成に向けて—」を2008年10月30日（木）、31日（金）の両日、名古屋大学大学院環境学研究科レクチャーホールにおいて開催しました。

本オープンフォーラムでは、大学等有する知と経験を個々の大学の枠を超えたネットワークによって組織的かつ継続的に提供するための枠組みとして、農林畜水産分野の大学／研究機関等からなる「農学知的支援ネットワーク」形成に関する妥当性、可能性を検証し、実現に向けた具体的な方向性について大学・機関等が意見を交換しました。これによって、「農学知的支援ネットワーク」に対する当センターの考え方と今後の課題を参加者間で共有することができたと考えております。

当センターは、本オープンフォーラムの結果を踏まえ、ネットワーク調整機能を有する事務局として、「農学知的支援ネットワーク」の具体的な組織・制度設計や共同提案プロジェクトの形成等の活動を開始いたしました。

本号が、当日ご参加いただけなかった方も含め、関係者間の情報共有および共通認識形成の一助となり、多様化する途上国のニーズに誠実かつ確実に応えることができる国際教育協力の推進に貢献することを祈念しております。